



岡山大学名誉教授  
高橋隆平博士近影

## 高橋隆平博士略歴

明治43年9月8日	京都府福知山市に生まれる
昭和3年4月	北海道帝国大学予科農類入学
昭和9年3月	北海道帝国大学農学部農学科卒業
昭和9年4月	農林省農事試験場鴻巣試験地勤務
昭和9年12月～10年11月	歩兵第20連隊入隊（中国東北地方派遣）
昭和10年12月	財団法人大原農業研究所助手
昭和12年2月～15年5月	第1回応召（中国北部地方派遣）
昭和14年3月	財団法人大原農業研究所研究員
昭和19年2月～21年5月	第2回応召（中国中部地方派遣）
昭和23年11月～27年3月	財団法人大原農業研究所副所長
昭和25年10月	北海道大学より農学博士の学位を受ける（栽培大麦の地理的分化および起原に関する研究）
昭和26年4月～44年3月	日本育種学会幹事（9期）
昭和27年4月	岡山大学農学部附属大原農業研究所教授（作物遺伝学部門）
昭和28年8月	岡山大学農業生物研究所教授（作物遺伝学部門）
昭和29年4月	日本育種学会賞受賞（本邦大麦品種の分類と地理的分布の研究）
昭和30年11月	倉敷市文化賞受賞
昭和32年2月～現在	財団法人大原奨農会理事
昭和33年5月～9月	ロックフェラー財団の援助により大麦研究者との研究交流のため 米国およびカナダへ出張 第10回国際遺伝学会 および 第1回国際小麦遺伝学シンポジウム 出席
昭和34年1月～3月	九州大学農学部講師（併任）
昭和35年10月～42年3月	岐阜大学農学部講師（併任）
昭和38年1月～51年12月	日本遺伝学会評議員（3期）
昭和38年8月～9月	第11回国際遺伝学会および第1回国際大麦遺伝学シンポジウムに 出席し講演を行なうため日本学術会議よりオランダ国へ派遣さる
昭和38年8月～現在	国際大麦遺伝学シンポジウム常任委員
昭和42年4月～43年3月	九州大学農学部講師（併任）

昭和44年 4 月	日本農学賞および読売農学賞受賞（オオムギ品種の地理的分布と遺伝的分化の研究）
昭和44年 7 月	第2回国際大麦遺伝学シンポジウムにおける招待講演のため米国へ出張 カナダのガルフ大学で招待講演を行なう
昭和45年 3 月～46年12月	学術審議会専門委員
昭和45年 4 月～47年 3 月	岡山大学附属図書館分館長
昭和45年 4 月～49年 3 月	日本育種学会副会長（2期連続）
昭和45年 4 月～現在	日本農学会評議員
昭和45年 6 月～48年 5 月	国立遺伝学研究所評議員
昭和48年 4 月～49年 3 月	東北大学農学研究所講師（併任）
昭和49年 4 月～現在	日本育種学会会長（2期連続）
昭和49年 4 月～51年 3 月	岡山大学附属図書館分館長
昭和49年 5 月	韓国の大麦、小麦育種担当者の指導と講義のため、アジア太平洋協議会食糧および肥料技術センター（ASPAC）の招請により韓国へ出張
昭和49年 6 月～現在	国立遺伝学研究所評議員
昭和50年 7 月	第3回国際大麦遺伝学シンポジウムにおける招待講演のため西独へ出張。帰途、北欧および東独の研究機関を訪問
昭和51年 4 月	定年のため退職
昭和51年 4 月	岡山大学名誉教授の称号を受ける

## 高橋隆平博士研究論文および著書目録

### A. 栽培大麦の地理的分布、起源および進化

1. 大麦幼植物の特性に関する研究. 農学研究 34 : 109-156 (1942).
2. 大麦幼植物の特性に関する研究. 第2報 種子根の角度とその品種間差異 (板野弥寿夫と共著). 農学研究 37 : 71-73 (1947).
3. 芽鞘の特性に依る本邦大麦品種の類別. 医学と生物学 2 : 501-504 (1942).
4. 本邦大麦品種の地理的分布に就て. 医学と生物学 2 : 505-508 (1942).
5. 本邦大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第1報 芽鞘の長さの二頂曲線の意義. 農学研究 34 : 273-314 (1942).
6. 本邦大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第2報 大麦品種の春播性, 秋播性とその生態並に地理的分布. 農学研究 35 : 83-109 (1943).
7. 本邦大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第3報 短型大麦に於ける変種の識別に就て. 農学研究 35 : 111-129 (1943).
8. 本邦大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第4報 普通型大麦に於ける変種の識別に就て. 農学研究 36 : 153-166 (1944).
9. 本邦大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第5報 芽鞘の長さの遺伝とその育種の意義. 農学研究 37 : 102-108 (1947).
10. 本邦大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第6報 底刺型遺伝子の地理的分布. 農学研究 37 : 132-136 (1947).
11. 本邦大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第7報 葉鞘の毛茸について (山本二郎・板野弥寿夫と共著). 農学研究 38 : 5-10 (1948).
12. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第8報 小穂脱落性について (山本二郎と共著). 農学研究 38 : 41-43 (1949).
13. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第9報 芒の変異-1. 農学研究 38 : 77-81 (1949).
14. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第10報 芒の変異-2. (山本二郎と共著). 農学研究 38 : 152-156 (1949).
15. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第11報 芒の粗滑と護穎の広狭 (山本二郎と共著). 農学研究 38 : 157-160 (1949).
16. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第12報 植物体各部に於ける着色について (山本二郎と共著). 農学研究 39 : 25-32 (1950).
17. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第13報 皮裸性について (山本二郎と共著). 農学研究 39 : 32-36 (1950).
18. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第14報 渦性遺伝子の連鎖関係とその地理的分布 (山本二郎・丸橋 渡と共著). 農学研究 39 : 57-62 (1950).
19. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. 第15報 小穂脱落型と栽培大麦の系統発生 (山本二郎と共著). 農学研究 39 : 81-90 (1951).

20. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. (第1報) 芽鞘の特性に依る本邦大麦品種の類別. 日作紀 15 : 217-223 (1944).
21. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. (第2報) 本邦大麦品種の穂型の類別に就て. 日作紀 15 : 224-232 (1944).
22. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. (第3報) 芽鞘の長さの遺伝とその育種的意義. 日作紀 18 : 44-47 (1948).
23. 大麦品種の分類と地理的分布に関する研究. (第4報) 渦性の連鎖関係とその起原 (山本二郎・丸橋 渡と共著). 日作紀 20 : 167-170 (1950).
24. 大麦底刺の変異と底刺の構造に関する一私見. 農学研究 36 : 131-151 (1944).
25. 日本産大麦の芒質と芒の灰分含量との関係 (予報) (板野弥寿夫と共著). 農学研究 37 : 5-6 (1947).
26. 大麦の研究 (一). 農耕文化 2 (3) : 9-11 (1947).
27. 大麦の研究 (二). 農耕文化 2 (4) : 11-13 (1947).
28. 大麦の研究 (三). 農耕文化 2 (7) : 14-16 (1947).
29. 大麦の研究 (四). 農耕文化 2 (8) : 16-17 (1947).
30. 大麦の起原, 分化および分類. 麦作新説 (戸刈・安間編) : 14-29. 朝倉書店, 東京 (1954).
31. 大麦の地理的分化と育種. 農業技術 9 (10) : 14-17 (1954).
32. 栽培大麦の起原と進化. 最近の生物学 第5巻 (駒井・木原編) : 186-228. 培風館, 東京 (1955).
33. オオムギの起源. 農学大辞典 (野口監修) : 372-375. 養賢堂, 東京 (1961).
34. ビール麦の起原と栽培の歴史. ビール麦の栽培 (戸刈・長谷川編) : 1-16. 地球出版, 東京 (1963).
35. 大麦品種の遺伝的分化と地理的分布. 育種学最近の進歩 第6集 (日本育種学会編) : 18-32. 養賢堂, 東京 (1965).
36. 大麦の起源. 化学と生物 6 : 358-361 (1968).
37. Studies on the classification and the geographical distribution of the Japanese barley varieties. I. Significance of the bimodal curve of the coleoptile length. Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 9 : 71-90 (1942).
38. Studies on the classification and the geographical distribution of the Japanese barley varieties. II. Correlative inheritance of some quantitative characters with the ear types. Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 9 : 383-398 (1951).
39. Studies on the classification and the geographical distribution of the Japanese barley varieties. III. On the linkage relation and the origin of the "uzu" or semi-brachytic character in barley (with J. Yamamoto). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 9 : 399-410 (1951).
40. The origin and evolution of cultivated barley. *In* Advances in Genetics 7 (ed. M. Demerec) : 227-266. Acad. Press, New York (1955).
41. The geographic differentiation and origin of cultivated barley. Proc. 9th

Pacific Sci. Congr. 8: 94-98 (1960).

42. Further studies on the phylogenetic differentiation of cultivated barley. Barley Genetics I (Proc. 1st Intern. Barley Genet. Symp.): 19-26. Centre for Agricultural Publications and Documentation (PUDOC), Wageningen (1963).
43. Characteristics of the wild and cultivated barleys from Afghanistan and its neighboring regions (with J. Hayashi, S. Yasuda and U. Hiura). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 12: 1-23 (1963).
44. A study of cultivated barleys from Nepal Himalaya and North India with special reference to their phylogenetic differentiation (with J. Hayashi, U. Hiura and S. Yasuda). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 14: 85-122 (1968).
45. Genetic approach to the origin of two wild forms of barley, *lagunculi-forme* Bacht. and *proskowetzii* Nábelek (*Hordeum spontaneum* C. Koch emend. Bacht.) (with Y. Tomihisa). Barley Genetics II (Proc. 2nd Intern. Barley Genet. Symp.) (ed. R. A. Nilan): 51-62. Washington Sta. Univ. Press, Washington (1970).

#### B. 大麦における変異形質の遺伝と連鎖

1. 大麦に於ける渦性及び稈の脆弱性の遺伝及び連鎖 (山本二郎と共著). 農学研究 39: 126-130 (1951).
2. オオムギにおける連鎖関係の研究, 特に第 I, 第 II 連鎖群の遺伝子について (山本二郎・安田昭三・塩尻 勇と共著). 農学研究 40: 131-136 (1952).
3. 柱頭の異常に基づく大麦の半不稔性の遺伝 (山本二郎・安田昭三と共著). 農学研究 41: 69-78 (1953).
4. 大麦の三叉芒の研究. 第 1 報 長三叉の遺伝 (板野弥寿夫と共著). 農学研究 40: 57-60 (1952).
5. 大麦の三叉芒の研究. 第 2 報 長三叉芒遺伝子  $K^e$  の変更遺伝子 (林 二郎と共著). 農学研究 44: 86-97 (1956).
6. 混数性オオムギの特性とその遺伝 (望月 明・林 二郎と共著). 農学研究 43: 51-58 (1955).
7. 混数性オオムギの特性とその遺伝. 第 2 報 Semi-minute について (望月 明・林 二郎と共著). 農学研究 47: 95-104 (1959).
8. 混数性オオムギの特性とその遺伝. 第 3 報 大正麦の矮性変異体 (土屋 工・守屋 勇と共著). 農学研究 50: 123-129 (1964).
9. 大麦の 7 連鎖群標識遺伝子と独立遺伝をする 1 群の遺伝子について (林 二郎・安田昭三と共著). 農学研究 45: 49-58 (1957).
10. 大麦における小穂脱落性遺伝子の連鎖研究 (予報) (林 二郎と共著). 農学研究 46: 113-119 (1959).
11. 雄性不稔大麦について. 農学研究 50: 151-157 (1964).

12. 大麦の無葉耳遺伝子 (*li*) 座における“正常”複対立遺伝子の分化 (林 二郎・小西猛朗・守屋 勇・平尾忠三と共著). 農学研究 51: 33-52 (1965).
13. 大麦粒のパーオキシダーゼ・アイソザイムの遺伝 (福山利範と共著). 育種学雑誌 21 (別冊 1): 130-131 (1971).
14. 補足遺伝子による大麦雑種の幼苗致死の研究. I. その遺伝様式と関与遺伝子の地理的分布 (林 二郎・守屋 勇と共著). 農学研究 53: 197-204 (1971).
15. 補足遺伝子による大麦雑種の幼苗致死の研究. II. 幼苗の形態解剖学的研究 (富久保男と共著). 農学研究 54: 15-22 (1971).
16. 補足遺伝子によるオオムギ雑種の幼苗致死に関する細胞生物学的研究 (山口彦之・多多良 敦と共著). 育種学雑誌 23 (別冊 1): 24-25 (1973).
17. 大麦における  $F_1$  雑種の黄化現象の遺伝と遺伝子の地理的分布 (林 二郎と共著). 育種学雑誌 22 (別冊 1): 77-78 (1972).
18. オオムギ人為六条変異体の遺伝と連鎖 (福山利範・林 二郎と共著). 育種学雑誌 25 (別冊 1): 126-127 (1975).
19. 大麦における 2, 3 の新変異形質の連鎖研究 (林 二郎・守屋 勇と共著). 育種学雑誌 26 (別冊 2): 105-106 (1976).
20. 遺伝子記号 (オオムギ), 染色体地図 (オオムギ), 遺伝学ハンドブック (篠遠ら編): 193-198, 247. 技報堂, 東京 (1956).
21. オオムギのアントシアニン着色に関与する 2 遺伝子の連鎖研究 (林 二郎・守屋 勇と共著). 農学研究 56: 167-178 (1977).
22. Inheritance and linkage studies in barley (with J. Yamamoto, S. Yasuda and Y. Itano). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 10: 29-52 (1953).
23. Inheritance and linkage studies in barley. II. Assignment of several new mutant genes to their respective linkage groups by the trisomic method of analysis (with J. Hayashi). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 13: 185-198 (1966).
24. Inheritance and linkage studies in barley. III. Linkage studies of the gene for fragile stem-2 and orientation of linkage map on chromosome 5 (with J. Hayashi and U. Hiura). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 13: 199-212 (1966).
25. Inheritance and linkage studies in barley. IV. Linkages of four variegated mutants (with I. Moriya). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 15: 35-46 (1969).
26. Inheritance and linkage studies in barley. V. Locating of seven new mutant genes (with J. Hayashi, T. Konishi and I. Moriya). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 15: 147-168 (1972).
27. Linkage study of albino lemma character in barley (with J. Hayashi). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 11: 132-140 (1959).
28. Linkage study of two complementary genes for brittle rachis in barley (with J. Hayashi). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 12:

99-105 (1964).

29. Genetic studies in trisomic barley. II. Further studies on the relationships between trisomics and genetic linkage groups (with T. Tsuchiya and J. Hayashi). Japan. J. Genetics 35 : 153-160 (1960).
30. Complementary genes for pigmentation at the leaf tip (with J. Hayashi). Barley Newsletter 8 : 49-50 (1965).
31. A test for allelism of 32 induced six-rowed mutants (with T. Fukuyama, J. Hayashi and I. Moriya). Barley Genetics Newsletter 2 : 25-27 (1972).
32. Information of linkage and mapping of genes on chromosome 3. Barley Genetics Newsletter 2 : 127-131 (1972).
33. New linkage data obtained during 1972-73 season (with J. Hayashi and I. Moriya). Barley Genetics Newsletter 4 : 74-76 (1974).
34. Genetic and linkage studies of the five types of induced 'six-row' mutants (with T. Fukuyama and J. Hayashi). Barley Genetics Newsletter 5 : 12-13 (1975).
35. Linkage analysis of barley mutants (with J. Hayashi, T. Konishi and I. Moriya). Barley Genetics Newsletter 5 : 56-60 (1975).
36. Inheritance and linkage studies of the chlorotic hybrids due to complementary dominant genes (with J. Hayashi and I. Moriya). Barley Genetics Newsletter 6 : 71-73 (1976).
37. New find of an allele *Rt'* semi-dominant over *rt* for rattail spike (with J. Hayashi and I. Moriya). Barley Genetics Newsletter 6 : 74 (1976).
38. A study of the interspecific hybrid, *Hordeum bulbosum* (4X) x *H. vulgare* (4X), with special reference to dihaploid frequency (with T. Fukuyama). Barley Genetics III (Proc. 3rd Intern. Barley Genet. Symp.) (ed. H. Gaul) : 351-360. Verlag Karl Thieme, München (1976).

#### C. 遺伝子作用

1. 大麦雑種集団における遺伝子頻度の環境による変化 (島崎佳郎・林 二郎・安田昭三・塩尻 勇・赤木温郎と共著). 植物の集団育種法研究 (酒井・高橋・明峰編) : 114-125. 養賢堂, 東京 (1958).
2. 大麦の皮裸性遺伝子の農業形質に及ぼす影響. I. 皮麦品種とその裸性突然変異体との比較 (桶村 宏・松本武夫と共著). 農学研究 49 : 59-66 (1961).
3. 渦性遺伝子の大麦の生産形質に及ぼす影響. I. 遺伝子の多面的作用と遺伝的背景 (林 二郎・守屋 勇・下山 博と共著). 農学研究 49 : 67-87 (1961).
4. 大麦の農業形質におよぼす密穂および渦性遺伝子の作用 (林 二郎・守屋 勇と共著). 育種学雑誌 21 (別冊 2) : 12-13 (1971).
5. 大麦の短芒遺伝子が農業形質に及ぼす作用 (林 二郎・守屋 勇と共著). 育種学雑誌 22 (別冊 2) : 100-101 (1972).
6. 二・六条品種間交雑による大麦育種に関する研究. I. 二条および六条遺伝子の



農業形質に及ぼす影響 (林 二郎・守屋 勇と共著), 育種学雑誌 25 : 334-342 (1975).

7. 自殖性植物における同質遺伝子系統の利用と育成方法に関する考察, 育種学雑誌 25 : 369-372 (1975).
8. Genetic studies of barley crosses involving two brachytic genes (with J. Hayashi). Japan. J. Genetics 31 : 250-258 (1956).
9. Effects of the genes for covered and naked kernels on some agronomic characters in barley. I. Comparison of two covered barleys and their naked mutants (with H. Inamura and T. Matsumoto). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 11 : 385-392 (1962).
10. The effects of the uzu gene on productive traits in barley. I. Evaluations of the genic effects in different genetic backgrounds (with J. Hayashi and I. Moriya). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 12 : 24-41 (1963).
11. Genetic studies on geographical distribution of barley varieties with special reference to uzu or semi-brachytic forms. Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 12 : 217-220 (1964).
12. Basic studies on breeding barley by the use of two-rowed and six-rowed varietal crosses (with J. Hayashi and I. Moriya). Barley Genetics III (Proc. 3rd Intern. Barley Genet. Symp.) (ed. H. Gaul) : 662-677. Verlag Karl Thieme, München (1976).

#### D. 出穂の生理と遺伝

1. 小麦のヤロビゼーションに関する試験 (近藤 万太郎・寺坂 伯祝と共著), 農学研究 30 : 1-38 (1938).
2. 大麦に於ける“感光性”の遺伝及び連鎖研究, 日作紀 20 : 258-259 (1950).
3. 麦類の出穂生理とその遺伝, 第1報 大麦に於ける“感光性”の遺伝及び連鎖 (山本二郎と共著), 農学研究 40 : 13-24 (1951).
4. 麦類の出穂生理とその遺伝, 第2報 2種の春播性大麦品種の遺伝子分析 (安田昭三・山本二郎・塩尻 勇と共著), 農学研究 40 : 157-168 (1953).
5. 麦類の出穂生理とその遺伝, 第3報 大麦における春播性の遺伝様式 (安田昭三・山本二郎・塩尻 勇と共著), 農学研究 41 : 87-96 (1954).
6. 麦類の出穂生理とその遺伝, 第4報 大麦における主稈葉長の推移の規則性 (安田昭三と共著), 農学研究 42 : 79-88 (1954).
7. 麦類の出穂生理とその遺伝, 第5報 大麦品種の光週性と温度との関係 (安田昭三と共著), 農学研究 47 : 213-228 (1960).
8. 大麦における出穂期の遺伝機構と選抜の問題 (安田昭三と共著), 植物の集団育種法研究 (酒井・高橋・明峰編) : 44-64. 養賢堂, 東京 (1958).
9. Die Jarowisation des Weizens, speziell in Bezug auf den praktischen Wert des Verfahrens in den klimatischen Verhältnissen Sudjapans (mit M.

- Kondo und Y. Terasaka). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 8:199-209 (1938).
10. Genetic studies of spring and winter habit of growth in barley (with S. Yasuda). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 10:245-308 (1956).
  11. Genetic studies of time of heading in barley (with S. Yasuda). Proc. Intern. Genet. Symp., 1956:498-508 (1957).
  12. Varietal differences in responses to photoperiod and temperature in barley (with S. Yasuda). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 11:365-384 (1960).
  13. Genetics of earliness and growth habit in barley (with S. Yasuda). Barley Genetics II (Proc. 2nd Intern. Barley Genet. Symp) (ed. R. A. Nilan): 388-408. Washington Sta. Univ. Press, Washington (1970).

#### E. 耐病性とその遺伝

1. 大麦品種の耐病性に関する研究. 第1報 白渋病に対する抵抗性の品種間差異 (西門義一・日浦運治と共著). 農学研究 38:141-151 (1949).
2. ビール大麦の半不稔性 (提灯穂) と麦斑葉モザイク病 (赤木温郎・井上忠男と共著). 農学研究 44:147-158 (1957).
3. 北海道におけるビール大麦の麦斑葉モザイク病発生調査 (井上忠男・大場景雄と共著). 農学研究 47:189-194 (1960).
4. 北海道のビール大麦の品種退化の問題と麦斑葉モザイク病. 育種学最近の進歩 第2集 (日本育種学会編):99-101. 養賢堂, 東京 (1961).
5. 大麦の縞萎縮病抵抗性に関する研究. 第1報 二条および六条大麦の抵抗性検定試験 (林 二郎・山本秀夫・守屋 勇・平尾忠三と共著). 農学研究 51:135-152 (1966).
6. 大麦の縞萎縮病抵抗性に関する研究. 第2報 品種の抵抗性程度と被害との関係ならびに異なる常発地の病原ウイルスに対する品種反応比較 (井上忠男・林 二郎・守屋 勇・平尾忠三・光畑興二と共著). 農学研究 52:65-78 (1968).
7. 大麦の縞萎縮病抵抗性に関する研究. 第3報 抵抗性の遺伝と連鎖 (林 二郎・守屋 勇・平尾忠三と共著). 農学研究 53:153-165 (1970).
8. Studies on the disease resistance in barley. I. Varietal differences in resistance to powdery mildew, *Erysiphe graminis* D.C. f. *hordei* Marchal. (with Y. Nishikado and U. Hiura). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch 9:411-423 (1953).
9. Semi-sterility in some two-rowed varieties of barley for malt and the barley stripe mosaic virus as its possible cause (with H. Akaki and T. Inouye). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 11:78-94 (1957).
10. Studies on resistance to yellow mosaic disease in barley. I. Tests for varietal reactions and genetic analysis of resistance to the disease

(with J. Hayashi, T. Inouye, I. Moriya and C. Hirao). Ber. Ohara Inst. landw. Biol. Okayama Univ. 16 : 1-17 (1973).

#### F. 種子学

1. 晩近の種子学一般(一)(近藤万太郎と共著). 実際園芸 22 : 620-624 (1937).
2. 晩近の種子学一般(二)(近藤万太郎と共著). 実際園芸 22 : 751-755 (1937).
3. 大麦, 小麦, 大豆, 蕎麦等農産種実の等級検査に就きて(第一報)(近藤万太郎・寺坂佑視と共著). 農学研究 27 : 89-125 (1937).
4. 小麦の穂発芽現象に就きて. 日作紀 9 : 45-62 (1937).
5. 小麦の穂発芽現象に就きて(第二報)(近藤万太郎・寺坂佑視と共著). 農学研究 28 : 85-103 (1937), 農業及園芸 13 : 513-520 (1938).
6. 小麦の穂発芽現象に就きて(第三報)(近藤万太郎と共著). 農学研究 30 : 69-86 : (1938).
7. 小麦粒の後熟に関する二・三の実験. 農学研究 29 : 146-170 (1938), 明峰正夫教授在職三十年記念農学論叢 : 169-186 (1938).
8. 紫雲英硬実の吸水膨張と温度との関係. 農学研究 30 : 111-131 (1938).
9. フェノール着色法による小麦の品種鑑識(第一報)(近藤万太郎と共著). 農学研究 30 : 39-68 (1938).
10. 大麦種子の休眠性に関する研究. 第1報 世界各地産大麦品種種子の休眠程度検定試験(河 龍雄と共著). 農学研究 53 : 123-139 (1969).
11. 大麦品種の休眠性に関する研究. II. 休眠性程度の年次間変動と品種の分級(福山利範・林 二郎と共著). 農学研究 54 : 185-198 (1973).
12. Untersuchungen über die Ährenkeimung des Weizens, spezielle in den Klimatischen Verhältnissen Japans, II (mit M. Kondo und Y. Terasaka). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 7 : 457-469 (1937).
13. Untersuchungen über die Ährenkeimung des Weizens, spezielle in den klimatischen Verhältnissen Japans, III (mit M. Kondo). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 8 : 223-230 (1938).
14. Berichte über die Tätigkeit des Ausschusses für die Samen der warmen Klimate, IV. Vergleichende Untersuchungen der Samen von *Nicotiana tabacum*, 1936 (mit M. Kondo und Y. Terasaka). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 7 : 429-447 (1936).
15. Berichte über die Tätigkeit des Ausschusses für die Samen der warmen Klimate, V. Vergleichende Untersuchungen der Samen von *Chrysanthemum cinerariaefolium* Bocc., 1937 (mit M. Kondo und Y. Terasaka). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 8 : 1-9 (1938).
16. Feststellung der Sortenechtheit des Saatgutes Weizens durch Phenolfärbung (mit M. Kondo). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 8 : 211-221 (1938).

17. A method for testing seed dormancy and the rating of varieties of barley (with T. Fukuyama). JIBP Synthesis 5 (ed. T. Matsuo): 124-130. Univ. Tokyo Press, Tokyo (1975).

#### G. 貯 蔵 法

1. 玄米の火力乾燥試験 (二) (近藤万太郎・寺坂侑視と共著). 農学研究 27: 195-213 (1937).
2. 玄米の火力乾燥試験 (三) (近藤万太郎・寺坂侑視と共著). 農学研究 28: 48-84 (1937).
3. 白米及び七分搗米の貯蔵並に缶, 俵装, 防湿紙等の貯蔵効果に関する試験 (近藤万太郎・寺坂侑視と共著). 農学研究 31: 1-33 (1939).
4. 玄米を缶に入れ乾燥剤を添加したる貯蔵試験 [第4報]. 乾燥不良米に生石灰を添加して3ヶ年半貯蔵 (近藤万太郎・寺坂侑視と共著). 農業及園芸 15: 9-13 (1940), 農学研究 32: 63-70 (1940).
5. 林木種子の貯蔵試験. 第一報 穀斗科種子 (近藤万太郎・寺坂侑視と共著). 農学研究 32: 283-303 (1941).
6. 米穀のサイロ貯蔵の実験. 第三報 乾燥不良米を火力乾燥したる後四ヶ年余貯蔵 (近藤万太郎・寺坂侑視と共著). 農学研究 32: 95-113 (1941).

#### H. 遺伝資源・その他

1. 稲田の落水期と米穀の収量並に品質との関係に就きて (予報) (近藤万太郎・寺坂侑視と共著). 農学研究 30: 87-110 (1938).
2. 稲の短期栽培としての晩化法 (近藤万太郎・寺坂侑視と共著). 農学研究 29: 83-107 (1938).
3. ビール麦の栽培. 農業岡山 22(9): 42-48 (1951).
4. 大麦における交雑組合せ検定の実験例 (林 二郎・安田昭三・塩尻 勇・赤木温郎と共著). 植物の集団育種法研究 (酒井・高橋・明峰編): 126-131. 養賢堂, 東京 (1958).
5. 麦稈真田用大麦の栽培と品種選択に関する研究 (赤木温郎と共著). 農学研究 42: 118-132 (1954).
6. 麦稈真田用大麦品種の栽培および育成に関する基礎研究. I (赤木温郎と共著). 岡山農試臨時報告 51: 85-93 (1955).
7. 麦稈真田用大麦品種の栽培および育成に関する基礎研究. II (赤木温郎と共著). 岡山農試臨時報告 54: 79-94 (1956).
8. 作物品種の登録と特性記録方法についての提案. 育種学雑誌 21: 285-295 (1971).
9. 遺伝資源の現況-大麦-. 遺伝 29(10): 42-47 (1975).
10. 植物の育種と育種学の領域における最近の進歩. 遺伝 30(12): 164-173 (1976).
11. A proposed Japanese record system for the useful plant germplasm (with M. Muramatsu). JIBP Synthesis 5 (ed. T. Matsuo): 147-197.

Univ. Tokyo Press, Tokyo (1975).

**I. 訳書および編書**

1. ドブザンスキー著 遺伝学と種の起原 (駒井 卓と共訳). 348頁 培風館, 東京 (1953).
2. 植物の集団育種法研究 (酒井寛一・明峰英夫と共編). 351頁 養賢堂, 東京 (1958).
3. 植物遺伝学 第3巻 生理形質と量的形質 (高橋隆平編). 505頁 裳華房, 東京 (1976).

**J. 文献目録**

1. 稲及米に関する 邦文 主要文献目録. 第三輯 (近藤万太郎・寺坂伯祝と共著). 農学研究 29 : 381-403 (1938).
2. 大麦に関する 邦文 主要文献目録. 第一輯 (近藤万太郎と共著). 農学研究 36 : 547-557 (1944).
3. Literatur-Verzeichnis über Reis und Reiskultur II (mit M. Kondo, Y. Terasaka und S. Issiki). Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 7 : 573-594 (1937).
4. List of literature on barley. Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 9 : 259-316 (1943).